

1 審議会名	第32回上田市都市計画審議会
2 日時	令和8年3月13日(金) 午後1時30分から午後4時00分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4 出席者	柳澤会長、井澤委員、中村委員、宮崎委員、田中委員、高野委員、横関委員、山本委員、中山委員、清住委員、鎌田様(代理)、中嶋様(代理)、井出様(代理) 計13名
5 市側出席者	
●都市建設部	佐藤部長
【都市計画課】	細谷課長、児玉課長補佐兼調査計画担当係長、増田調査計画担当係長 清水主査、飯澤主事、倉根技師
【丸子地域建設課】	内堀課長、寺島土木担当係長、山極主査
●上田地域広域	
連合事務局	橋詰室長、竹内主査
【ごみ処理広域化推進室】	
7 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
8 傍聴者	0人 記者 1人

協議事項等

1 開会(挨拶:佐藤都市建設部長)

2 議事(進行:柳澤会長)

(1) 議事録署名人の選出

- ・高野委員、田中委員を指名

(2) 調査審議

【調査審議1】

都市再生整備計画(丸子中心市街地地区)の事後評価について

- ・資料に沿い、内堀課長、寺島係長より説明

(委員) 路線バス利用者数の減少について、事業者が努力した点や運転手不足など制御困難な要因の両面から整理して記載すべき。また、デマンド交通の進化の在り方やAIデマンド交通の取組についてご見解をお聞きしたい。

(事務局) 丸子地域ではデマンド交通は運行エリアを絞って実施している。デマンド交通の全面的な移行は、路線バス事業者との兼ね合いから現状では難しいと考えている。

AIデマンド交通については、人材不足からも将来的には切り替えが必要と捉えているが、現時点では現状の体制で運営している状況である。

(委員) バス利用者数のみでなく、自動車利用や周辺店舗の来客状況も事業評価として見ていくことが重要と感じる。

(事務局) 今回の評価では、市街地拠点、ネットワーク、健康の三本柱で評価を行っている。

途中で指標が変わったこともあり、全体的な利用状況を把握するという点では課題もあるが、事

業を実施したことで一定の効果は現れてきていると感じている。
今後も引き続き、この取組を継続していきたいと考えている。

(委員) 依田川ウォーキングロードの利用促進に向けたソフト面の施策について。

(事務局) 現在ウォーキングマップの配布やホームページ掲載を行っている。引き続き PR 等のソフト面での取組も努めていく。

(委員) 箱畳線の今後の整備方針について。

(事務局) 現在、県と協議を行っている。協議状況によって前後する可能性はあるが、街路事業として令和 9 年度以降の事業化を目標にしている。

(委員) 丸子ベルシティの空き倉庫の利活用見通しと関係部署との連携状況について。

(事務局) 耐震補強費が高額なため建物活用は困難と判断し、今後は土地利用としての活用を検討する。現時点で、まだ関係部署との具体的な連携は行っていない。

審議結果

特段の意見は無し

【調査審議 2】

汚物処理場の都市計画変更(廃止)、ごみ焼却場(資源循環型施設)の都市計画決定について(上田市決定)

- ・資料に沿い、児玉課長補佐から都市計画決定に係る事項を説明。
その後、竹内主査から、施設建設の概要等について説明。

(委員) 都市計画策定の経緯の概要の年表が途中から始まっている理由について。

(事務局) 県の定めた様式に基づき、今回の手続きを開始した段階からの経緯を整理している。

(委員) 施設名称の表記ゆれや決定主体が分かりにくい点について。

(事務局) 今後、県と調整し、名称や表現の整理・統一を検討する。

(委員) ごみ焼却場の焼却処理能力が 144t/日から 126t/日に縮小された理由について。

(事務局) ごみ処分量の実績の減少と計算根拠となる年間稼働日数基準値の増加により、さらにコンパクトな施設規模が可能と判断した。

(委員) 地元説明会で出された臭気や安全性への住民意見について。

(事務局) 臭気や煙突から排出される有害物質等に関してご心配の声が多かった。約 4 年をかけて環境影響評価を実施し、各段階において丁寧に説明を行った。また、施設完成後も臭気対策及び継続的なモニタリングを行う。

(委員) ごみ焼却場の北側に計画されている緑地公園が、今回の審議対象外である理由と今後の対応につ

いて。

(事務局) ごみ焼却場と周辺地域の整備については一体的な整備が望ましかったが、地権者調整等の理由から二段階で整備を行うこととした。今回はごみ焼却場の決定を行い、将来的には北側エリアについても検討していく。

(委員) 浸水時におけるごみ搬入・搬出ルート確保について。

(事務局) 通常時は南側堤防道路を使用する。災害時は事業者からの提案にもよるが、一般車両との導線調整について地元のご理解をいただきながら、施設北側のルートの活用について検討を進める必要があると捉えている。

審議結果

特段の意見は無し

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会 (挨拶：佐藤都市建設部長)